

2024年度「漢方医学教育研究助成」採択者一覧

一般研究助成：5件/13件			
No.	研究題目	施設名・所属（役職）	申請者（代表）
1	Near-peer teaching (NPT)による漢方医学教育の実践と教育効果の検討	大分大学医学部感染予防医学講座 教授	小林 隆志
	Near-peer teaching (NPT)とは直近の先輩が講師として授業を行う形態で、学生（near-peer learner)にとって親しみやすく質問しやすい学習環境を提供すると同時に、教える側にも多くの学びや気づきを与えるものである。本学医学科の4年次生で行う東洋医学の講義および研究室配属の実習においてNPTを導入し漢方医学教育への効果を検討する。具体的には本学サークルの東洋医学研究会に所属する学部学生ならびに本学附属病院の漢方外来に興味をもつ研修医が講師として授業を行い、その効果を学習到達度およびアンケートによる回答により評価する。これにより漢方医学の教育者および研究者の育成を図る。		
2	全人的医療としての漢方医学の有用性の体験的気づきを通して、医学生が医療者と協働して開発する教育ビデオ	関西医科大学医学部心療内科学講座 教授	蓮尾 英明
	本学での「全人的医療コース」では、前半は心身医学の講義を行い、後半にその治療法の一つとして漢方医学を教育している。このコース終了後の医学生有志を対象として、心身医学を実践する初診陪席で心理社会的因子と関連した難治的症候の病態を評価すると同時に、漢方医学的な評価を包括的に組み合わせた全人的医療の実践を経験して、再診陪席の過程でその変化の体験的気づきを得てもらい、この気づきをもとにした全人的医療における漢方医学の教育ビデオを医療者と協働して開発する。この教育ビデオは、翌年の漢方医学の反転授業の資料として活用する。漢方医学への関心の高まりなどを半構造化面接などの混合分析的手法を用いて評価する。		
3	鍼灸分野の実習およびBed Side Learning教材の開発と検証	福島県立医科大学会津医療センター附属研究所 漢方医学研究室 教授	鈴木 雅雄
	本研究は医学部での鍼灸に関する実習およびBSLの新たな教育資料の開発を目的としている。医学部教育において講義に関しては「漢方医学講義テキスト」とモデルスライドが存在している。一方、鍼灸の実習に関する資料は存在しない。従って、各大学で鍼灸の実習教育を行うことが困難な状況である。本研究の計画は、1年目では実習資料のプロトタイプを作成して、鍼灸系教員がBSLの学生を対象に実習を行い、学生の理解度を把握して資料の修正を行う。次年度に修正した資料を基にして鍼灸系教員と漢方系教員がランダムに実習を行い、当該学生の理解度を測定して、漢方系教員でも簡単に使える教育資料の作成を行う。		
4	医学、歯学、看護学、栄養学で共有できる漢方教育教材開発	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 地域医療学分野 准教授	網谷 真理恵
	現在、医学科だけでなく、薬学科、歯学科、看護学科においてモデル・コア・カリキュラムに和漢薬（漢方薬）について表記されており、卒前教育として漢方を学ぶ機会があることが望ましいが指導者が不足している現状である。一方、臨床現場においては、漢方の対象疾患は幅広く、医師、歯科医師、薬剤師、看護師など漢方を通して多職種連携での取り組みを行うことで、疾患概念にとらわれない広い範囲でのケアが必要となる。本研究では、これまでの調査研究でのニーズ評価に基づき、新たに、職種共通で漢方学的治療/介入が有効となる臨床場面の抽出を行い、各学科共通で使うことのできる有用性の高いPBLやロールプレイ課題を作成することを目的とする。		
5	バーチャル患者で学ぶ舌診・望診学習のための教育動画作成 (舌撮影解析システムTIASと生成AIの活用)	横浜薬科大学 薬学部 生薬学研究室 講師	村上 綾
	舌診は、書籍など既存の学習ツールでは、習得内容が限定的である。今回、生成AIを用いてバーチャル患者を作成し、目の前で患者の舌を観察しているように学べる、舌診・望診用の教育動画の作成を計画した。バーチャル患者が挺舌する舌は、我々が撮影・集積してきた患者の本物の舌画像であり、主訴や治療に用いた漢方処方などが紐づけされた約1300の舌画像データベースから、学習に最適な病態舌を選定する。学習動画により、舌の歪みや揺れなど特徴的な動きの病態舌を観察できる、舌診に要する時間を感覚的に体感できる、症例演習型で学べる、治療経過の舌所見変化を観察できる、皮膚や表情も観察できるなど、舌診の新しい教育動画作成を目指す。		

グループ研究助成：2件/7件			
No.	研究題目	施設名・所属（役職）	申請者（代表）
1	医師臨床研修指導ガイドラインに対応した漢方医学の初期研修カリキュラムおよび教材のモデル作成	福島県立医科大学会津医療センター附属病院 漢方医学講座 講師	畝田 一司
	現行の医師臨床研修指導ガイドラインには漢方医学の研修について記載がなく、漢方医学の初期研修を普及する上で支障となっている。本研究では、漢方医学教育施設における初期研修の課題を明らかにした上で、研修指導ガイドラインに対応した漢方医学の初期研修カリキュラムおよび教材のモデルを作成する。本研究で作成されたカリキュラム・教材は、研修医と指導医にとって到達目標や学習方略、評価方法が明確であるため、漢方医学の研修環境や診療科を問わず広く活用が期待される。さらに本研究の成果物は、将来的に研修指導ガイドラインに漢方医学を掲載する上での参考資料としても利用が期待される。		
2	医学生を対象とした漢方Webテスト実施の試み	名古屋大学医学部附属病院 総合診療科 病院教授	佐藤 寿一
	私共は漢方医学卒前教育の発展を目的とする日本漢方医学教育協議会（JCKME）を組織し、漢方卒前教育のコア・カリキュラムの目標の策定、方略としての講義スライドや教科書の作成を行ってきた。そして現在学習の評価について取り組んでいる。既に確立されているwebテストシステムを活用して医学生を対象にテストを実施し、各教育機関における学習効果を客観的に検証することを計画中である。JCKMEの中に問題作成委員会およびテスト運営委員会を組織して2025年までにテストを実施し、その後データを抽出し、データマイニング・成績評価・総括を行い、その成果を論文等で公開し、漢方卒前教育のコア・カリキュラムを完成させたい。		